

KENGURO 季刊報 vol.19



3D かんちゃん：学内カンパニーMMM制作
令和元年 10 月 31 日発行

Focus on !! モンゴル、台湾、タイから大学生 11 名を招聘 !!

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）の支援を受けて、今年度もアジア学生を岩手大学へ招聘しました。今回は、令和元年 7 月 8 日（月）～7 月 14 日（日）の日程で、モンゴル国立大学、モンゴル人文大学、モンゴル科学技術大学、台湾・国立高雄師範大学、タイ・パヤオ大学から大学生 11 名を招聘しました。「メディア技術を基盤とする先端的なデジタルコンテンツデザインを体験しよう！」をテーマとして、本学理工学部研究室での PBL や展示発表会見学などが行われたのでご紹介します。

★ 研究室で PBL を実施

オリエンテーションと理工学部長表敬訪問の後、招聘学生は関連分野の 3 つの研究室にそれぞれ分かれて、招聘学生・本学学生による相互研究紹介と PBL 実習を行いました。

約 2 日間にわたる PBL 実習とプレゼン資料の準備の後、各研究室による体験や課題を纏めた成果発表会を実施しました。写真計測による 3 次元モデル生成や 3D プリンタによるモデル製作体験、日本のスーパーなどでのパッケージデザインの調査と各国の違いに対する議論、3 次元計測装置を用いた生体センシング技術などの発表がありました。発表会終了後は、修了証書授与式が行われ、今野・研グロ室長より一人一人に証書が手渡されました。



デザイン・メディア工学コースの田中研究室での PBL の様子（写真右）。パッケージデザインに必要な要素について、各国の特徴を議論して、その後の実物の見学への準備を行いました。



知能・メディア情報コースの今野・松山研究室で招聘学生がプレゼン用のスライド作成を行っている様子（写真左）。PBL では、写真計測による計測データを用いて、3D プリンタでオブジェを印刷しました。



電気電子通信コースの小林研究室での PBL 実習の成果を発表中の招聘学生（写真右）。PBL では、Kinect センサを用いた心拍計測のプログラミングを行いました。ここでは、Kinect センサからの信号を受け取り、ノイズ除去のために信号処理技術を学びました。

★ デジタルコンテンツ展示発表会見学

発表会の翌日、岩手大学理工学部で開催された芸術科学会東北支部主催のデジタルコンテンツ展示発表会「アート&テクノロジー東北 2019」を見学しました。今回の展示発表会では、ゲームや VR/MR コンテンツなどのインタラクティブ型作品、CG やアニメーションなどの静止画・動画コンテンツなど、計 92 作品が発表されました。会場では、16 件の体験型作品のデモが行われ、招聘学生は興味深そうに説明を聞いていました。見学後、盛岡を出発し、次の日、成田から皆さん元気に帰国しました。



展示発表会で、一関高専の学生による作品「Torippy Bird」を体験中の招聘学生（写真右）。両手に持ったコントローラーで自身の翼を操作して、空中飛行を疑似体験中。



来盛初日の夜に行われた本学学生との交流会の様子。本学学長、理工学部長を含む本学教職員や学生と談笑し、交流を深めました。



修了証書授与式の後、参加者全員で（写真上）。

★タイ王国キングモンクット工科大学とインターンシップ交流!!

大学間交流協定を締結しているタイ王国キングモンクット工科大学トンプリ校 (KMUTT) およびラカバン校 (KMITL) から合計 6 名のインターンシップ学生の受け入れ、並びに、同大学トンプリ校へ本学学生 5 名のインターンシップ派遣を約 3 週間の日程で行いました。本インターンシップは研究室での研究活動と企業研修の両方を体験することができる特徴的なプログラムとなっています。タイの学生と本学学生の活動の様子をご紹介します。

タイ学生受け入れ (令和元年 5 月 27 日～ 7 月 26 日)

Sorawit Luekiatkul さん、KMUTT コンピューター工学科 (B3)

The time that I spent in Iwate was like a precious moment in my life, it gave me the experiences that I would never find in other countries. I stayed in Kaikan during that time and have a chance to talk and trade opinions with other foreign students I really enjoyed. I could say that I don't understand Japanese at all, but I learn one sentence that keep me alive thru internship period is "日本語わからないです", from this sentence many people try to speak English with me and I really impressive with those people. Everyone in Prof. Zhang lab is nice because that if I ask for a help with my research or even not about research they always help. I really want to see and join Sansa festival, but I have no time left in Iwate. This is not the first time that I go aboard, but this is the first time that I don't really want to came back to Thailand. I hope that one day I'll be back.



ハンモックで寝そべてリラックス中の Sorawit さん。盛岡城跡公園にて。

Shayanin Thattapong さん、KMITL 応用物理学科 (B3)

This internship was one of the most important experiences of my life. During the 2 month period, I had internship at Iwate Univ. and Sumida Power Technology Cooperation in Nagano. I had the opportunity to talk and learn from many experienced professor. Including that I spoke with members of the laboratory in exchange for experience, culture, language, etc. I have seen the different ways of life between Thai and Japanese society. It made me feel that the world is wider than before. It made us discover what we are and realize that there is still a lot of things and places left for us to learn and to go. For me, this is one thing to fulfill happiness in my life. I hope that many people will have the opportunity like this to open the world for themselves.



企業研修中の合間に、信州安曇野田んぼアートを観光(写真右、一番左が Shayanin さん)。大河ドラマ「いだてん」がテーマのようですね。

本学学生派遣 (令和元年 9 月 2 日～ 9 月 20 日)

斎藤 南海斗さん、電気電子通信コース (B4)

私はこれまでに海外へ行ったことがありませんでした。そのため英語での実践経験はなく、拙い会話しかできませんでしたが今回インターンシップを受け入れて下さった KMUTT の先生方、学生の皆さんは最後まで私の話を聞いてくださり、英語での表現力を身に付けることができました。研究室での 2 週間は Apichai 先生のもと、光ファイバーの接合に関する研究を体験しました。そこではタイの大学院生の生活をじかに見ることができ、時間感覚、研究室の雰囲気などの違いから驚くことも多かったです。それは同時に日本では感じることでない感覚でもありました。またタイの学生と一緒に食事をとる機会があり、タイ語を教えてもらったり、タイで流行っているものについて話したりととても楽しい時間を過ごすことができました。たくさんの新鮮で貴重な体験ができ、このプログラムを通して自分自身一皮むけることができたのではないかと思います。この経験を生かして次に海外へ行くことのできる機会があれば積極的にチャレンジしたいです。



タイ学生と食事中的の斎藤さん (写真上、右端)

藤田 竜輝さん、機械・航空宇宙コース (M1)

私は KMUTT の Chawin Chantharasenawong 先生の研究室と日系自動車関連企業の Maxwell Innovation Co.Ltd. で研修を行いました。大学では「羽無し風車の土台設計」という課題を与えられました。材料力学や流体力学の知識を使いながら寸法や重量を計算し、CAD を使いモデルを設計しました。わからないことは研究室の学生と相談しながら決めることで、英語の語学力も向上しつつコミュニケーションをとることができ、楽しい時間を過ごすことができました。

また企業研修では、加工された部品を設計図通りに組み立てるアセンブリという作業を行いました (写真右、右端が藤田さん)。設計図を見て組み立てるといって単純作業でしたが、3D モデルを見ながらねじの位置を確認するなど、組み立てる前の準備をしっかり行わないと組み上がらないということをもっと体験しました。今回の研修では日本と異なる文化に触れることで新たな考え方が芽生え、英語を実際に使うことで英語に対する苦手意識を克服できました。



掲示板 - スマホから閲覧 !! -

研グロのホームページがリニューアルされ、スマホからの閲覧がしやすくなりました。右の QR コードをスマホで読み込みお試しください。季刊報 vol.18 までのバックナンバーをご覧ください。

編集局 :

理工学部研究高度化・グローバル化特別対策室

Email: kenguro@iwate-u.ac.jp

TEL: 019-621-6405

http://www.kenguro.iwate-u.ac.jp/

